

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の活動形態について 資料①

※グループワークでのコメントの意図を変えずに文言を整理しています。

(A) 中学校区・小中連携【協議会を東側と西側に設置】



メリット

- 人選 ⇒ 委員の人選にだぶりが無い・応援団の人選に困らない
- まとまり ⇒ 地域ごとの討議に取り組みやすい
・委員の人数が多いと話がすすみやすいと思う
- 小中のつながり
⇒ 9年間を見通した取り組みができる ・定着のつながり
・小中一貫との連携が進めやすい ・先生のつながりが強まる
・地域での一体感がある

デメリット

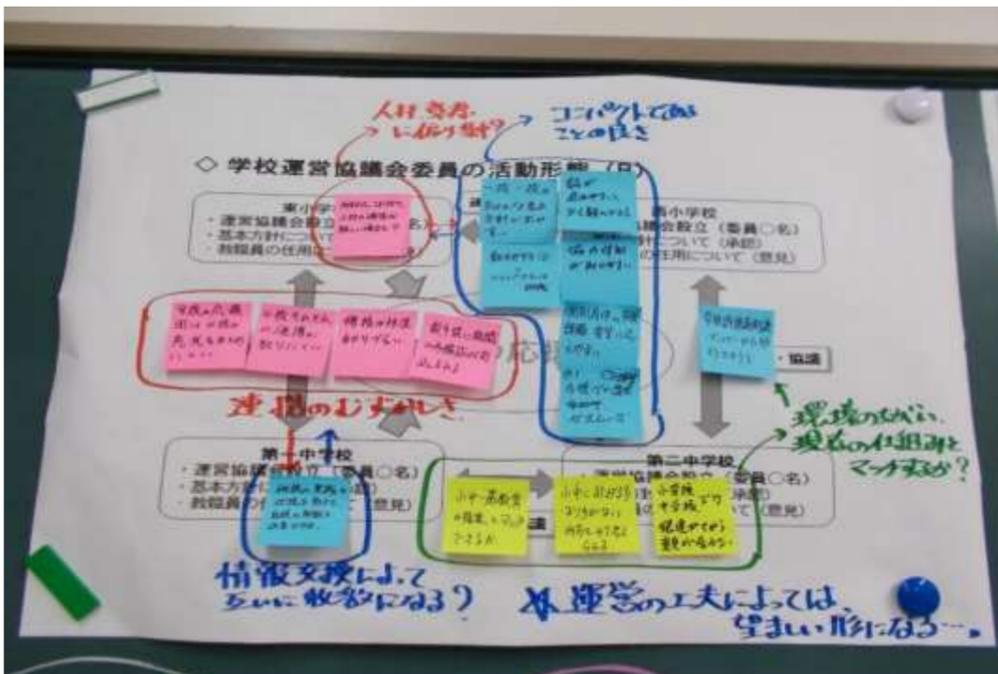
- 委員の人選が難しい ⇒ それぞれの活動形態の課題点でもある
(委員会要綱等における兼任・任期の協議が必要)
- 西側と東側の取り組みの差 ⇒ 情報交流次第で活動が活性化
- 連携のむずかしさ
⇒ 学校の応援団の方が各校の意見や要望をまとめるに
(中心となる委員や担当者が情報整理をする必要がある)
・4校の連携がとりにくい、他校の状況がわかりづらい
(情報交流・共有するための方法や場の設定が必要)
・数年後に組織の再編が見込まれる

どちらともいえない

- 委員の長期化
⇒ 委員の負担感の増加 = 委員のなり手の不足
・年度踏襲のマンネリ化の可能性あり = 安定化
⇕
・9年間を見通した協議ができる
- 小学校と中学校の役割分担
(小と中の役割分担のほか、連携方法を協議することが必要)

人選	連携	協議会
◎ <u>メリットが多い</u>	△ 課題はあるが、 取り組み次第で改善できる	△ 課題はあるが、 連携により改善できる

(B) 各校【協議会を各校に設置】



メリット

- コンパクトで活動しやすい
⇒ 少人数、学校の特色が出せる、協力体制がとりやすい
・各校での活動がスムーズである
⇒ 個別課題や要望に応えやすい、話が進めやすい
・一校一校の細やかな基本方針が出やすい
- 情報交流によっては、各校の取り組みが活性化

デメリット

- 連携の難しさ ⇒ 学校応援団の意見集約 ・他校の情報共有
(応援団の方との連携のとりに方を調整する必要がある)
(情報交流・共有するための方法や場の設定が必要)
- 委員や応援団の方に偏りが出る可能性がある。
(委員については、委員会要綱等における兼任・任期の協議が必要)

どちらともいえない

- 小中一貫教育の推進とマッチするか
- 小学校と中学校の環境の差
⇒ 小と中では環境が違う、意見が合わない
小と中に関わる方が両方を見て考えられるのか
(環境の違いを考慮し、進め方を検討する必要がある = 運営方針の協議)

人選	連携	協議会
△ 課題はあるが、 連携により改善できる	△ 4校の取り組みの連携 は難しいが、共有できれば 効果が大きい	◎ <u>メリットが多い</u>

(C) 町内合同【協議会を町内で設置】



メリット

- 少ない人・少ない回数
⇒ 委員の人数が少なくてもよい
・一辺に済む ・会議回数が抑えられる
- 情報の共有化ができる
⇒ コーディネーターが1人でもよくなる (人材の取り合いにならない)
- 義務教育学校を見据えた活動形態

デメリット

- 時間と量 ⇒ 4校一斉では日程調整や議題集約等に時間がかかる
・担当者の業務量が多くなる ・動きにくい
(持続的に運営可能な体制を構築する必要がある)
(学校、地域、委員会それぞれが担うべき役割の整理をする必要がある)
- 人選のバランス
(委員については、委員会要綱等における兼任・任期の協議が必要)
- きめ細かな意見をひろいにくい、各校の承認が難しい
- 地域性 ⇒ 馴染むまでに時間がかかる
・今でも東側と西側の地域差がある
(CS/運営協議会のねらいや目標の周知、それらからズレない運営がカギ)

どちらともいえない

- 地域性や各校の方向性をどうするか
(環境の違いを考慮し、進め方を検討する必要がある = 運営方針の協議)
- どこでどうまとめるのか、委員の適正人数、地域の様子がわかるけど...

人選	連携	協議会
◎ <u>メリットが多い</u>	△ 課題は多いが、 取り組み次第で改善できる	× 課題が多い